

『東アジア近代史』第24号 2020年6月

《特集》第一次世界大戦後の東アジアと秩序の変容

趣旨説明 小池 求

佐々木 雄一

〈第Ⅰ部〉「知識人・運動の視点から」

第一次世界大戦後におけるアジア知識人の言論空間 —在京台湾人留学生の執筆活動を通じて— 紀 旭峰

「第Ⅰ部」へのコメント —人的交流に即して— 小野寺 史郎

〈第Ⅱ部〉「国家・統治の視点から」

国際主義といかに向き合うか —文明国標準の変質と日本外交— 酒井 一臣

多義化する「新外交」—東アジアにおけるウィルソン主義と国際連盟観の対立— 帯谷 俊輔

規範と秩序の変容と連続—東アジアにおける第一次大戦の意義— 川島 真

〈第Ⅲ部〉「チベット・モンゴルの視点から」～報告要旨～

第一次世界大戦とチベット問題 —シムラ会議後の英・中・蔵関係— 小林 亮介

第一次世界大戦の終結とモンゴルの命運 —民族自決主義、自治喪失、そして革命— 橘 誠

《独立論文》

華北分離工作以後の日中「経済提携」—日本側アクターの構想を中心に— 矢野 真太郎
治外法権撤廃・内地開放論の経済的背景 —中国「本部」を中心に— 渡辺 千尋

幣原喜重郎の満蒙観の形成と危機対応 種稲 秀司

第一次世界大戦後の日本外務省と「通商自由主義」 吉田 ますみ

一九三〇年代における太田宇之助の中国統一援助論 島田 大輔

《書評》

佐々木雄一著『帝国日本の外交 1894-1922 なぜ版図は拡大したのか』 望月 みわ

張碧恵著『中華民国と文物 国家建設に果たした近代文物事業の役割』 熊本 史雄

関智英著『対日協力者の政治構想—日中戦争とその前後—』 島田 大輔

藤井康子著『わが町にも学校を—植民地台湾の学校誘致運動と地域社会』 新田 龍希

《新刊紹介》

麻田雅文著『日露近代史』 高橋 亮一

《佐々木揚先生 追悼記事》

佐々木揚さんを偲ぶ 檜山 幸夫

佐々木揚先生を偲ぶ 川島 真

佐々木揚さんの思い出 中見 立夫

《活動報告》

『東アジア近代史』 [ゆまに書房](#) (TEL03-5296-0491) 発売 (本体価格 2,500円)